

万の財政調整基金への積増しによって、着実に財政の改善が図られてきていることを評価したい。また29年度に国分寺駅北口再開発の保留床処分金の歳入が予定されているが安易に基金を取り崩すことなく財政運営を行って頂きたい。

#### ●職員の意識改革について

将来を見据えた人材育成を着実に進め、強い組織を構築して頂きたい。管理職の更なるレベルアップや課内・部内会議の充実を求めたい。

#### ●まちの魅力発信として

宇宙開発発祥の地としての更なる周知、日本遺産の認定に向けた取り組みを通じて当市の歴史遺産の魅力の発信に努力して頂きたい。

#### ●認知症支援に関わる事業について

認知症サポーター養成講座の拡大、新規事業の「認知症カフェ」開設や「認知症地域支援推進員」「見守り相談窓口」の設置で、より重層的で支援をしやすい体制になった。今後も介護する家族に寄り添った施策を進めて頂きたい。

#### ●LED化・自治会町内会への取組について

今後は更に自治会・町内会管理のLED化が重要であり、丁寧な説明と準備を求めたい。

●「AED」設置について配置増を評価したい。今後コンビニ等への設置など促進活動を願う。

●保育の待機児童解消に向けた取組について新たに保育所が3園開設されることを評価したい。今後の事業者誘致は、地域偏在が生じないよう、また近隣住民の信頼や理解を得られるよう、より一層の取り組みを求めたい。

●未就学児に対するインフルエンザ任意予防接種事業について乳幼児は重篤化し易く保護者負担も軽減できる。早期の情報提供を願う。

●25歳から29歳の若年層の健康診断について健康への意識啓発、早期発見・治療の為にも受診率アップの取り組みを引き続きお願いしたい。

#### ●障がい者相談事務事業について

ヘルプマーク等、ぶんバス優先席等に表示されること、また精神保健福祉業務の相談体制の充実が図られたことを評価したい。今後も一人に寄り添う支援相談、思いやりのある取り組みを。

#### ●「生活道路・安全対策」について

狭隘な道路が多い当市では、生活道路の整備や自転車レーンや自転車利用者のマナー向上の取り組み等、粘り強い対応を強く求めたい。

#### ●「ぶんバス」について

「万葉ルート」について、地域住民の期待に応え、12月に本運行が開始となる見通しとなったことを高く評価したい。また「けやきルート」実現に向けて、あらゆる可能性を模索しながら、最大限の努力で形にして頂く事を強く求める。

●施設予約システム及び、証明書等コンビニ交付サービス開始について市民の利便性が大きく向上される。特にコンビニ交付については、個人情報保護の対策を図って頂きたい。

#### ●スポーツ推進について

「史跡駅伝」は今後も長い取り組みとして続けて頂きたい。また「スポーツ推進計画の策定」に向け、将来を見据え、市民のスポーツ活性化に繋がる計画となるよう求めたい。

## 請願・陳情の提出について

請願・陳情はどなたでも提出できます

市民の皆様への行政等に対するご要望は、請願・陳情として市議会に提出できます。

請願・陳情はいつでも提出できますが、平成28年第2回定例会(6月1日開会予定)からの審議を希望する方は、5月12日(木)までに議会事務局へご持参ください。

#### ●教育環境の整備について

小学校のトイレ改修工事、特別教室のエアコン設置の早期契約・着実な施工完成を願う。子ども達の教育環境の整備を重ねてお願いしたい。

#### ●ごみ減量化及び再利用推進について

今後は未利用食品への着手が更なる減量の取り組みに欠かせない。食品ロス削減、循環型社会を目指し、更なる減量に努めて頂きたい。

## ささえ合い、共に生きるまちづくりに向けて



国分寺・生活者ネットワーク 岩永 康代

平成28年度予算は、過去最大の約408億6千万円となったが、収支均衡予算となった上、財政調整基金を約6億6,000万円計上し、合計約34億円まで積み増すことができた。更に、地方債未償還金残高の減少がすすむ等、総合的に見るとバランスの取れた予算となっている。

しかし一方で、扶助費が約106億円と、初めて100億円を超えた。少子高齢社会に伴い、今後ますます増え続ける扶助費をはじめ、今後は公共施設等マネジメントや、道路・下水道等のインフラ整備、清掃施設整備や新庁舎建設等、多額の財政負担が見込まれている。また、財政フレームでは平成29年度に国分寺駅北口再開発事業の保留床処分金135億円の繰入と、翌30年度に約70億円の償還が試算されている。

人口ビジョンでは、生産年齢人口が平成31年度をピークに減少すると推計されているが、次世代への負担を最小限にとどめる視点が必要だ。

このような状況から、平成28年度の総合ビジョン策定にあたっては、社会情勢や人口動態を的確にとらえ、若い世代が国分寺で暮らし続けたいと思えるような事業展開と、その裏付けとなる財政の確保は欠かせない。また、平成28年度中に庁舎建設基金を財政調整基金から切り離すとの考えが示されたが、いつ起こるか分からない災害等に備えるためにも、財政調整基金については、市が最低ラインとする20億円に留まることなく、更なる積み増しを計画的に行うことを求める。

平成28年度は全ての事業をゼロから見直し、「ゼロベース部局積み上げ方式」での予算編成3年目となった。しかし一方で、徹底的な精査やヒアリングの強化は当然必要であるが、本当に必要な予算まで削られることの無いよう、市民に寄り添った判断も同時に必要と考える。また、事務事業の進め方については、協働の推進等、その手法も含めて「最小の経費で最大の効果」につながる展開を望む。

生活困窮者支援については、無料学習塾や就学援助、ひとり親家庭への支援等も含めて、経済的な困窮を抱えている人や家庭に的確な情報が届くような周知と合わせて、未利用食品の回収を、庁内連携をはかり実施する等、縦割りを排した横断的な取り組みで生活困窮者支援を進めることを強く求める。更に、国分寺市の実態や他市の事例を検証し、家計相談をはじめ、就労支援等、任意事業の実施の検討を求める。

国分寺まつりについては、政治的な意味合いを持つという理由で、2年続けて特定の団体が参加できない状況があった。平成28年度の開催にあたっては、新たに発足する実行委員会にこれまでの経緯を正しく伝えると共に、オンブズパーソンが示した実行委員会との協議を要望する。また、市民が参加するおまつりで、市民を

二分するようなことがないように、市が責任を持ち、解決に向けた道筋をつけることを求める。

平成28年度は、障害者差別解消法が施行され、障がいのある人もない人も、地域で共に生きることを改めて確認し、理解し合い、助け合う機会となる。また、新たに介護予防・日常生活支援総合事業がスタートし、平成27年度に策定された地域福祉計画を市民とともに地域で展開するなど、多くの市民との協働で市民主体の支え合いの地域づくりを描き始める大事な年となる。年齢、性別、国籍の違いや、障がいのあるなしにかかわらず、このまちで暮らし、働き、学び、活動する市民一人ひとりの人権が尊重され、誰をも排除することのない共生のまちづくりに向け、市民とともに新たな一歩を踏み出す年となることを期待し、賛成の討論とする。

## 消費税財源を活用し 市民施策の抜本的拡充を



日本共産党国分寺市議団 中山 ごう

【市政の根本的な2つの問題】①「住民の福祉の増進を図る基礎自治体として、市民生活を支える姿勢が根本的に欠けている」こと。②「市民参加などの市の最高規範である自治基本条例の立場が著しく後退している」こと。

【市民の暮らし最優先の市政へと、消費税財源の活用と大型開発からの脱却を】8%へと増税された消費税の財源約12億円を活用し、暮らしの予算、社会保障施策の拡充が必要。しかし、消費税増税分の使途が不明朗なために、社会保障施策の拡充は極めて不十分。市民が求めているのは大幅な拡充だが、それに応える市政になっていない。その根本的な要因として、莫大に膨れ上がっている国分寺駅北口再開発事業の問題がある。総事業費930億円、市の負担473億円の事業が国分寺市の財政を圧迫していることは明白。住民の福祉の増進を図ることを基本とする地方自治体の役割をしっかりと果たすためにも、大型開発中心の市政から、市民の暮らしを支える市政へと抜本的な転換を求める。

【保育待機児童の解消に全力を。それには民営化ストップ】認可保育所の整備は高く評価しているが、待機児童が増えている。待機児童ゼロの実現を求める。一方、公立保育所の民営化は時代遅れの施策。保育士が不足しているのに、民営化によって市が保育士を手放すことは、待機児童解消の取組と矛盾している。民営化計画はストップを。また、市が検討を進めている保育料の値上げは少子化対策に逆行。絶対に値上げすべきでない。

【学童の整備を早急に。6年生までの拡大を】2019年度までに1064名の定員を確保をめざし、あらゆる手段で確保すべき。そして、早急に  
次ページに続く▶

## 次の定例会開催予定

市議会を傍聴してみませんか

平成28年第2回定例会は、6月1日(水)から開会の予定です。

議会はどなたでも傍聴できます。ぜひ傍聴にお越しください。

※本会議は市役所第1庁舎3階議場で、委員会は同委員会室で、午前9時30分から開始予定です。